

テニス事始めの頃

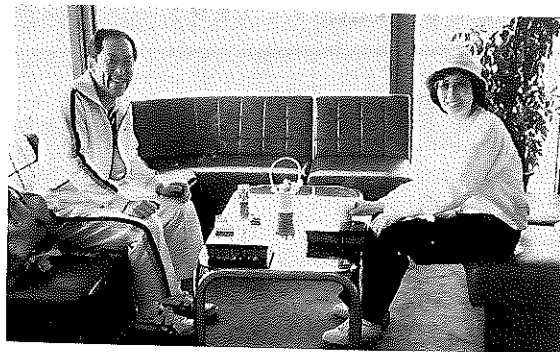
江崎 泰明・江崎 洋子〈福岡〉



1978年（昭和53年）10月13日（金）

（夕方、M君来る。頼んでいたラケットをわざわざ持って来てくれた。診療が終わってから、先日入会した西福岡テニスクラブへ行く。初めてのテニスである。幸いIコーチが指導してくれた。足腰を鍛え直さなければとても走り回れそうにない。当分、基礎練習に通う積もりである）

以上は、小生の日記に初めてテニスという言葉が登場したくだりです。M君というのは私の高校時代の同級生で、高校、大学を通じてテニスをやっており、社会人になってからも現在までテニスを続けている超ベテランです。彼の勧めで私たち夫婦はテニスクラブに入会し、テニスの喜びと苦しみを味わうようになったのですから、私たちにとってはまさにテニスの大恩人なのです。また、私生活の面でも色々と指導して戴いており、テニスについても日常の生活についても、私のお師匠さんというわけです。そしてIコーチ。彼は現在でも私たちのクラブの専任コーチを務めていて、クラブが出来て僅か10年で、初心者であった会員を方々のテニス大会で優勝させ、ジュニアを福岡県の強化選手にまで育て上げたほどの優れた指導者です。さらにIコーチの御両親。診療が終わってからコートに駆けつけても、冬の週日の夕方は殆んど人がおりません。一見簡単に見える壁打ちも、初心者には3球とは続きません。そんなとき相手をして戴いたのが、Iコーチの御両親でした。球筋もさだかではなかった頃の私たちの相手をすることが、如何に大変なことであったかを知ったのは、それから2～3年経ってからでしたが、とにかく、このIコーチの御両親の御配慮と、打ち終わった後のワンポイントアドバイスがなかったら、私たち夫婦はとうの昔にテニスを止めていたかも知れません。今でもIコーチの御両親には、心から感謝しています。



テニスを始めて10年、夫婦ペアで優勝も味わえた

10月26日（木）

（13日以来時間があれば診療後テニスに行っているが、なかなか難しいスポーツである）

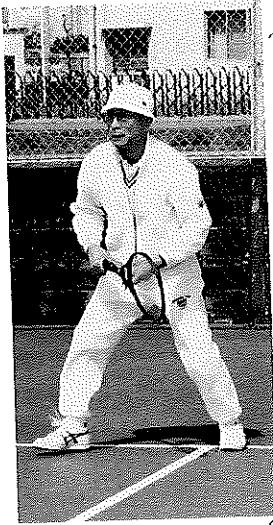
11月22日（水）

（先週の土曜日から腰痛あり。しばらくテニスを休むことにする。ラケットのグリップのビニールカバーは、グリップが痛まないように着けてあるものだと思ってそのままにしていたが、はずして使うものだと注意された）

早速、私たちは1期3ヶ月間のテニススクールに入り、張り切って練習を始めたのですが、あまり張り切りすぎて腰を痛めてしまったようです。外から見ていると一見優雅に見えていたテニスが、実際にやってみるとかなりハードなスポーツであり、簡単には上達しそうにないので、止めようかどうかと迷った第1回目がこのときでした。

12月28日（木）

（テニススクールは今年は今日で終わり。24日のクリスマストーナメントで決勝まで進出出来たことは、上手な方とペアを組ませてもらえたせいとはいえ、これからの励みになるし大いに勉強になった。また、テニスを通じて沢山の人の知ることが出来たことは今年の大きな収穫である）



テニス諷詠四季拾句

園 本 穹 子 (厚)

〔福岡〕

凡医われ元旦腕立て伏せ初め
正月虹スマッシュ決めしとき見たり
初東風や鴻臚館址の辺のテニス
落花敷く城のコートにするテニス
テニスもて文武の武とす菖蒲風呂

露けしや日の出真横にするテニス
ラケットの素振り爽やか夜も妻
ロブ上げし天の高きにとんび舞ひ
虫鳴けりコートを逸れし球ほとり
天心の有明月へサーブトス

このクリスマストーナメントはテニスクラブが出来てから初めてのクラブ内の試合で、まだお互いに顔もよく知らないような状態でした。上手な人と初心者とでペアを組み、トーナメント形式で試合をしたのですが、今から考えると、上手な人はサーブにしてもストロークにしても、初心者に対して手加減しながらのプレーで、さぞやりにくかったことであろうと思います。まだルールもよく理解出来ていない初心者であった私は、わけもわからずにただ夢中でボールを追いかけているうちに、いつの間にか決勝まで行けたことで、テニスを止めようなどという迷いは、いっぺんに吹き飛んでしまいました。

1979年(昭和54年)1月7日(日)

(洋子と西福岡テニスクラブへ行き練習をした。今年は2人で(テニスの腕が上がって)楽しめるような年になればよいが)

甘い甘い。1年やそこらで上手になれるわけがない。だが、その頃の私たちは甘い幻想を夢みながら、せっせと練習に励んでいたのであります。

5月20日(日)

(西福岡テニスクラブのスクール生だけの試合があり、2人で一日中テニスをした。組合せの関係で2人でペアを組むことはなかったが、それぞれに楽しい試合をすることが出来た)

1月から5月までの間に、テニスのことが何も書かれていないところをみると、恐らく、ただひたすらスクールに通い練習に精を出していたのでしょう。その甲斐があったのか、この日のスクール生だけの試合では、楽しい試合が出来たと喜んでいました。しかし、スクールでは随分苦しい思いをしました。力ばかり入ってフォームはばらばら、サーブはいっこうに入らない。前日少々飲み過ぎていようものなら、Iコーチのフォアとバックの振り回しでたちまち息が上がり、頭はガンガン足はヨロヨロになり、自らドクターストップをかけるという位なら、やはり40歳近くになってからでは無理なのかなと、密かに思い悩んだものであります。

7月10日(火)

(相変わらず土・日はテニスに行っているが一向に上達しない)

まだまだ、苦しきことのみ多かりき、といった

ところで苦難の時代が続きます。このころの私は、ゴルフはもちろんのことソフトボール、バレーボールなど色々やっておりましたが、現在では、土・日は出来るだけテニスをするにことにして、他のスポーツからは遠ざかっています。殆んど毎晩、医師会の仕事で外出しますので、ナイトゲームを楽しむことも出来ません。出張で土・日にテニスが出来ないときが一番辛く感じられるようになりました。

8月26日(日)

(テニススクールは3期目が終わった。続けて4期目もやることにしたが、これが終われば丁度1年間習うことになる。しかし、あまり上達しない。最後の4期目でもう一度一からやり直しである。それで駄目なら諦めるしかない)

かなり深刻なことを書いておりますが、一緒にテニスを習い始めた仲間は1人減り、2人減りと、次第に止めてしまい、おまけに、かみさんも一人前にテニス肘とやらになり、数カ月間スクールにも行けない状態でしたので、私まで弱気になっていたようです。それでも、同級生のM君やIコーチの御両親にときどき相手をしてもらい、その度にほんの僅かなアドバイスでもしてもらおうと、よし、もう少し頑張ってみようという気になったから不思議なものです。ましてや、たまたまいい当たりをしたときに、ナイスショット！　いまの打ち方を忘れないように、などと声をかけられると急にうまくなったような気分になり、再びやる気を起こしたものでした。現在でもその頃のことを思い出し、最近始めたばかりの方とするときには、フラインプレーを大いに誉め、今のようなプレーがもう少し多くなればすぐにうまくなりますよ、あとは腰を落としてラケットを立てて、などと先輩たちに言われた通りのアドバイスをすることになっています。

9月16日(日)

(2人で佐賀の丸三ローンテニスクラブへ全九州ドクターズテニス大会を見に行く。義父(垣内誠一)と義弟(垣内正典)が出場しているので応援。福岡や熊本の知った先生方が何人も出場していた。こんな大きな大会にいつかは出てみたいものだ)

これは久留米の担当で行われた第28回大会です。私たちにとっては、これが九州ドクターズとの初めての出会いでした。そして、いつかはこの大会に2人で出場してみたいという思いから、今まで以上にテニスに真剣に取り組むようになりました。本も買いました。教育テレビのテニス教室も見ました。テニスの先輩やコーチに、積極的にアドバイスも受けました。2ヶ月に一つテーマを決めて練習にも励みました。そしてテニスを始めて約1年、まずは地元で小手調べというわけで、厚かましくも福岡市医師会テニス大会に出場したのであります。

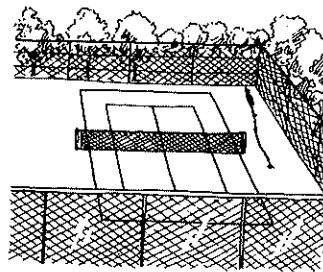
11月3日(土)文化の日

(市医師会テニス大会に出場。本戦で負け、コンソレで負け、リコンソレでも負け一勝も出来ず。リコンソレの試合中、両足にけいれんが来て全く動けなくなった。コート上で仰向けに倒れ、痛さと悔しさで涙が出そうになった)

そして苦節10年！！

1988年(昭和63年)11月27日(日)

(第46回全九州ドクターズテニス大会壮年B組に洋子と組んで出場し優勝した。大きな優勝楯を2つ並べて2人で乾杯。テニスを始めて丁度10年、途中で何度止めようと思ったことか。ときにはテニスゆえに喧嘩をしたこともあったが、結局、ここまで続けて来られたのは2人で一緒に始め、互いに励ましあい助けあって来たからであろう。また、多くの人々に指導して戴いたお陰でもある。まさに、人生の縮図である)

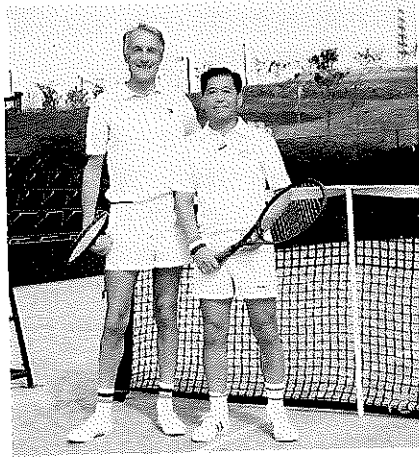


林 明亮 <福岡>



第16回全日本医師テニス北海道大会会場で

楽しいテニスで素晴らしい人生を

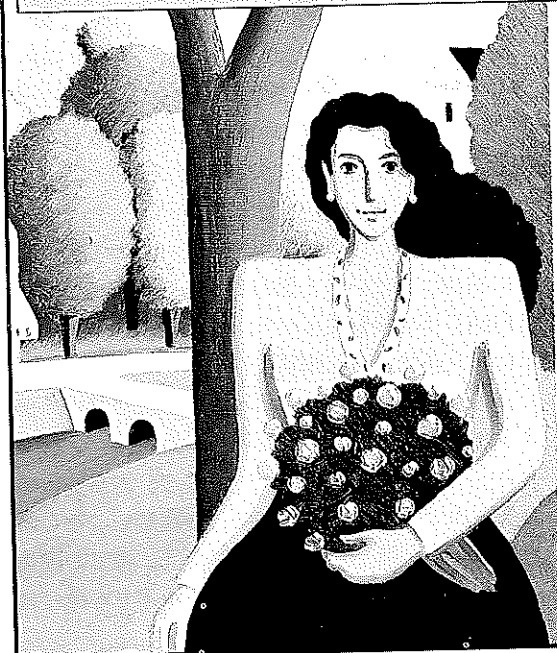


第15回全日本医師テニス神戸大会、2回戦で前年度全世界医師テニス高壮年シングルの覇者（イタリアの選手＝写真左）と対戦、6-1、2-6、6-4で負けました

九州医師テニス協会も平成2年11月25日大分市で举行された第50回大会を以て満25周年を迎えました由、これを記念して第50回大会記念誌を発行されます事は誠に御同慶に堪えません。これまで企画運営等御世話戴いた役員の方々の御苦労は並大抵の事ではなかったと推察し敬服しますと共に深く感謝申し上げます。顧みますと月日の経つのは早いもので昭和52年の第25回大会記念誌発行が数年前の事のように思われてなりません。この時の記念誌発行に当たり大変御尽力並びに御世

花粉症、皮膚アレルギー疾患に

●アレルギー反応性細胞に作用するセルテクト



アレルギー性疾患治療剤 (オキサトミド製剤)
セルテクト錠 ドライシロップ

(効能・効果)

成人：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚掻痒症、
 湿疹・皮膚炎、痒疹
 小児：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、痒疹

(使用上の注意)

一般的注意

- 1) 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。
- 2) 本剤は気管支拡張剤並びに全身性ステロイド剤と異なり、すでに起こっている喘息発作を速やかに軽減する薬剤ではないので、このことは患者に十分注意しておく必要がある。
- 3) 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイド減量を図る場合には十分な管理下で徐々に行うこと。
- 4) 本剤により、末梢血中好酸球が増加することがあるので、このような場合には経過観察を十分に行うこと。

*「用法・用量」、その他の「使用上の注意」は製品添付文書をご参照下さい。



製造発売元 (資料請求先)
 協和発酵工業株式会社
 東京都千代田区大手町1-6-1

提携
 ヤンセンファーマスーティカ
 ベルギー

話下さいました時政副会長が不幸にして平成2年2月に亡くなられ誠に残念に思います。心より哀悼の意を表し御冥福を御祈り致します。

さて、私事で甚だ恐縮ですが、私がテニスを始めたきっかけは昭和32年九州ドクターズラグビーチームの結成以来チームの一員として県ラグビー協会の年間スケジュールによる対抗戦並びに関東、関西ドクターズラグビーチームとの親善試合及びドクターズラグビー全国大会等に参加するため、トレーニングの目的で昭和41年に福岡テニスクラブに入会したのがそもそもでした。ラグビーも引き続き昭和52年頃まで続けましたが、そのうち見様見まねで始めたテニスの方が段々病み付きになりテニスの魅力に取りつかれ現在に至っております。

お陰様でテニスを通じ諸先輩の方々とも知己を得、また職業を異にした多くの方々とも親睦を深める事が出来ました。これは私の人生にとってかけがえの無い喜びであります。協会の春秋2回のトーナメントには出来るだけ参加していますが、最近、常連の先輩の方々の欠席が目につく様です。加齢による身体の不調に起因する様です。やむを得ないとは思いますが淋しい極みです。会員の皆様も健康には呉々も留意され長くテニスを楽しんで戴きたいと思えます。これが協会の繁栄につながるものと確信致します。私も今後の人生をテニスを楽しみながら、すばらしいものにして行きたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。また会員の皆様の御健勝と御多幸と共に、協会の繁栄を祈念してやみません。

もう一度なんとか勝利の美酒を！

敗因の研究 原田恒喜〈福岡〉

after tennisという、テニスの後の爽快感というか、試合後の快い疲れと喉の渇きを癒す、あのビール一杯は誰でも忘れられない悦楽の一時である。近頃はしかし、アフターテニスと言えば、悔恨と反省、打ちのめされた敗北感で何時までもくよくよして決してアルコールでは癒されない。しかもつかれは次週の週末までも持ち越し体力も心の立ち直りも遅くなる一方である。

考えてみると、勤務医時代にTBに罹り3者併用療法で治って1年して開業した。開業後は運動不足とアルコールの為患者の代わりに体重だけが增加して、ついに体重は73kgになった。大学の医局時代に一寸齧った事のあるテニスもTBで一生出来ないと言っていたが、丁度その当時福岡市医師会が新天町にあり、またその地階に福岡ローンテニスクラブの事務室もあった。早速テニスクラブの入会を申込み、同級生のI君も近所に開業してお互いに患者は少なくウィークデイの午後、九電テニスコート（当時薬院）までのこのこと出掛けたものだ。

その後I君はゴルフに転向して困っていたところ現在のパートナー竹内君が入会してくれた。その頃から本格的にテニスの練習に志し花田、松田先生達のモーニングテニスの仲間入りをさせても

らった。元来一度諦めたテニスを始めたのは、開業以来の運動不足で体重ばかり増加して73kgもなり僅か10mも走れなくなった為であった。薬院の九電テニスコートでの早朝練習のお陰で、目標の60kgまで体重を落とすことが出来た。

当時を思うと、誠に若さのせいもあったであろうが、ただがむしゃらにテニスづけになっていた。時には早朝テニスの前に2～4km走ったり、夜も庭に出てラケットにカバーをつけたまま、素振り2～300回等したものである。お蔭で九州医師大会でも別府でBクラスで優勝、次の長崎大会でAクラスで優勝した。この当時が一番勢いがあった時で決して技術的には今よりは上であったとは思えない。ただ勢いというか、力まかせで怖いもの知らずというのか、相手がどの位強いかわからずに試合に出ていたと思われる。その証拠に今では何回しても決して1ゲームもとれないであろう富田、大蔵組にも勿論勝てはしなかったが6～8くらいに善戦したこともあった。また当時は下関オープン、城島高原、別府正月、百歳テニス、ダンロップ、毎日オープンテニスなど、あらゆる機会を利用して参加したものだ。戦績もそこそこのものを残した積もりである。例えば、隣県の国体選手にはまぐれとはいえ、シングルスでも稀には

思い出すまま

佐伯清美〈福岡〉

始めて大会に参加したのは、佐賀市での秋の試合でした。県庁近くのおぎやかな赤色があったクレーコートが印象にのこっています。弟の加藤とペアーを組んでもう20年近くも昔になったようです。相手は一回戦増田先生（久大教授）組でしたが、早々に敗れ、コンソレもいさぎよい敗戦でした。その後毎年毎年春秋の大会に弟と組んで参加いたしました。下関、大分、熊本、宮崎にも遠征いたしました。10年近いあいだBクラスのまま、最高の成績は宮崎フェニックスでの3位でした。

弟が東京に転出してペアーがくめなくなり1～2年出場しなかった期間がありましたが、学友の永江君（柳川市開業）を誘い、ペアーを組んでまた参加できるようになりました。

クラスは前と同じBクラス。同君との初参加

勝った事もあった。

しかし余りのオーバーワークの為か、肉体的故障が続発した。先ず右足の肉離れ、次は左足に同様の肉離れ、右手の腱鞘炎、テニスエルボウ、また練習中に転倒して脳震盪を起こして意識不明となり救急車で友人の病院に運ばれて約6時間して意識が回復したこともあります。その為しばしば2～3ヵ月、長い時は半年以上もテニスが出来ない時もあった。

そんな事で、あまりの故障と事故の多さに反省して練習量を少しずつ減らしていった。所が私の様な基礎が出来ていない者にとっては適面にその結果が出てきて、それから年齢と共に坂を転げ落ちるように勢いと言うか成績は悪くなり、今年はドン底でありました。全日本と全九州は共に全敗でありました。体重と反比例して戦績も落ちこんで、好調時58kgまで落ちた体重も今は段々と昔に近づきついに70kgまでになった。練習過剰では肉体的故障に悩まされ練習不足では戦力低下に落ち込んでしまう。分かり切った事ではあるが、そのバランスをとる事が難しい

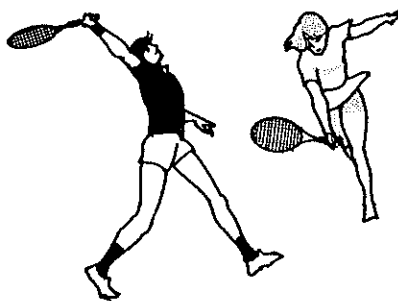
しかも最近試合前のピリッとしたあの緊張感

は5月、飯塚での小雨の中でした。一回戦で敗退しましたが、その後も同君と各地での大会には参加いたしました。準優勝が最高の成績、一回は是非優勝をと誓いながら遂に大きなカップの獲得は実現させ得ませんでした。今や馬齢を重ね、体力的にも望みは叶えられそうにもありません。ここ数年は日本のオリンピック参加よろしく、勝つことでなく参加することに意義をみとめるようにしています。

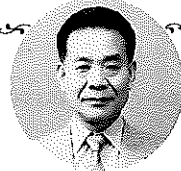
長い間、春、秋、青空のもとでの夢をもたせてくれた大会、数多い知友を得ることができた大会、試合が終わった後のさわやかな満足感、数々のなつかしい思い出のつきない大会。この大会の益々の発展と会員皆さまの健勝を祈念しながら拙文をとじさせていただきます。

も感じなくなり、負けたあとの悔しさも、負け慣れてあまり感じなくなった。その結果、負けてもとにかく年に1～2回懐かしい先生方と元気に汗を流せば、それでいいではないかと思って、参加することに意義があると思っていました。しかしこう負けてばかりではやはり如何に楽天的といっても、少々depressiveとなり精神衛生上よろしくありません。要するに敗因の最大の原因は近頃のテニスに対する取組の態度がたるんでいるとしか言いようのないのが最大の原因と考えております。

そこで、もう一度なんとかして這い上がって65歳までにはせめて、本戦の優勝をして、長い間忘れていた勝利の美酒を味わいたいものと思っています。



ストレス解消 肥満防止の良薬



山田 収

〈久留米〉

この度、50回大会の開催を祝し、諸先生方の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

さて、私のテニスは、宮城成圭名誉教授の手ほどきに始まり、今日まで35年という長い歳月に亘っていますが、なかなか思うようになりません。やはり、スポーツは、学生時代から基礎をしっかりと身につけていないといっこうに上達しないことを今更ながら痛感しています。しかし、幸いにもパートナーに恵まれて、久留米大会で、同僚の本間保一先生とBクラスで準優勝し、飯塚大会では、後

輩の日高紀幸先生と組んで念願の優勝を飾ることができました。入賞は後にも先にもこの2回だけですが、顧みれば、その頃が、週1～2回の練習ができたし、絶好調の数年であったように思います。最近では、週1回できればいい方で、上達することよりも、むしろ現状維持のために励んでいます。確かに、ストレス解消になり、朝の目覚めも爽やかで疲労回復と肥満防止のためにも唯一の良薬として楽しんでいます。

家庭平和に ビバ!!テニス

根城 圭子 〈久留米〉

主人からラケットとスコートをプレゼントされ恥じらいながら短い白のプリーツのスコートを身につけてから早や10年——。今やボールを追いかけるためには、なりふり構わぬ“オバタリアンテニス”に変貌してしまいました。

ラケットの握り方も知らない0からのスタートでしたけど、辛抱強くボール出しをしてくれた主人には今更ながら頭が下がる思いです。

テニスを始めて2～3年はラリー相手は主人だけで、週に3回約1時間ストロークの練習をして



楽しく、そろって「ビバ!!テニス」

いました。仲の良い時は幸福感に浸りながらボールを優しく丁寧に打ち、時折り冷戦状態の時にはボールが主人の横っ面に見え、思い切り張りとはばすが如く、ラケットを力一杯振り回していました。

ラリーを続けている間に汗と共に“冷たい心”が暖かさと愛情に変わり、いつのまにか主人が頼

マクロライドの理想を求めて



New & Well

Balanced Macrolide

マクロライド系抗生物質〈日抗基 酢酸ミデカマイシン〉

ミオカマイシン®

錠200・ドライシロップ100・200 MIOCAMYCIN®

健保適用



※効能・効果、用法・用量、使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

(資料請求先)

明治製菓株式会社
 104 東京都中央区京橋2-4-16
 TEL: (03) 272-6511

り甲斐のある人に見えて来たりしました。

本当にテニスのお陰で結婚生活21年を仲良く保っているのかも知れません。

ボールがネットを越せなかったり、ホームランしたり、ボールの行方の定まらない私を根気強く指導してくれました。努力の甲斐あって昭和61年の九州ドクターズテニス鹿児島大会（霧島ロイヤルテニスクラブ）での壮年B組で主人と組み、優勝。次いで丸三ローンテニスクラブで行われた同福岡大会で平塚先生（筑紫医師会）と組んでいただき優勝いたしました。

霧島での優勝の時は、秋の紅葉のとても美しい季節でした。テニスコートのかなたは、高千穂の山々を一望に見渡せる大パノラマで、日の光により、山ひだの陰影の微妙な美しさに心惹かれる思

い出の深い優勝でした。

その思いが募り、一昨年霧島コートのおすぐ近くに山荘を建てました。家族や仲の良い友人達と連れ立っては思い出のコートでの優勝の味をかみしめながらテニスを楽しんでいます。

テニスのお陰で主人の恩師、宮城先生や医師会の先生・奥様方と垣根を越えたおつき合いが出来、本当に幸せです。また、自己の可能性と若さと健康を保つために努力することをテニスによって教えられました。

私にとって、テニスはまさに“ビバ//テニス”です。いつまでも家庭平和と健康保持を目指し、また、テニスを通じて親しい知人、友人の輪をひろげるためにもテニスを一生のスポーツとして続けたいと思います。

テニスを生涯の友として

中川 邦 男〈久留米〉

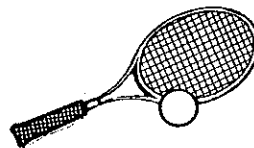
昭和14年明善校（旧制）入学、御存知の如く大戦争の真最中、何かと苦労の連続でした。部費も少なく、ボールもない、ラケットも穴のあいて曲がったもの、裸足での練習、第一、食糧に困った時代でした。

それでも何とか、全国ボーイズ・ガールズ大会（大阪・中百舌島）で単、複優勝（旧門鉄・兵動君と共に）＝3年春▽全日本中学庭球大会（甲子園）第3位＝4年夏▽明治神宮大会（田園コート、現在の国体）出場などを果たしました。

私は九高医に進学し、終戦後、九州学生選手権大会でシングルス2年連続チャンピオンになりました。そして全日本学生東西対抗（名古屋・栄町コート）に参加しました。

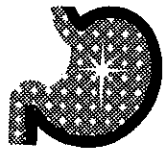
その後、医業のため20余年ラケットを握らず、最近、皆様と共に大会に出場させて頂いています。老いたりといえ、若き日の努力が何らかの形で残っているようです。

現在も週1～2回は若者とラケットを交えていますが、今後テニスを生涯の友と致したいものと思っています。



1日1回投与が可能

防御因子増強型 胃潰瘍治療剤として初めて――



粘膜防御性胃潰瘍治療剤

ガスロン錠2mg・4mg
細粒0.8%

（マレイン酸イルノグラジン製剤）

- 初めてのベンゾグアナミン骨格を有する胃潰瘍治療剤――イルノグラジン製剤です。
- 防御因子増強型の胃潰瘍治療剤としては初めて1日1回投与が可能となりました。
- 胃粘膜の上皮細胞間接合を強化することにより、細胞防御作用を示します。（動物実験）

〈効能・効果〉胃潰瘍

〈用法・用量〉通常、成人マレイン酸イルノグラジンとして

1日4mg（ガスロン錠4mg：1錠、ガスロン錠2mg：2錠、ガスロン細粒0.8%：0.5g）を1～2回に分け経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

使用上の注意は添付文書をご参照ください。



日本新薬

資料請求先

日本新薬株式会社・学術部
〒601 京都市南区西大橋八条下ル

健保適用

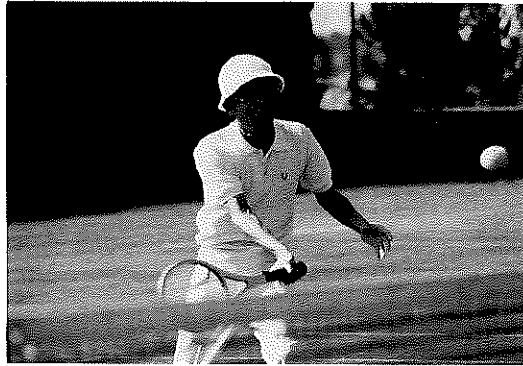
エンジョイ テニス

豊増 弘幸〈久留米〉

明善高校に入学して、テニスクラブへ誘われ、本年44歳の私は、27年余の間、白球を追い掛けております。久留米大学病院を退職してから、現在では、テニスは丸三クラブで、週1〜2回（ナイターが主）中川先生、根城先生、馬場先生、石田先生、一の瀬先生や、時には九大教授の庄司先生達とエンジョイテニスで汗をかき、日々のストレス解消と健康維持のためには欠かすことの出来ないものとなっております。もう壮年に近くなって、この頃は妻のストロークの相手をするようになりました。

私のテニス歴には、輝かしいものはありませんが、昭和40年に大学へ入学して、学生時代は、西日本医学生総合体育大会のレギュラー争いに、勉学を忘れて頑張ったものです。昭和46年に卒業して、テニスが盛んな第二外科へ入局しますと、医局対抗テニス大会が待っていました。その頃、二外科チームはもうベテランの小須賀健一助教授をリーダーとして、池田明生先生、古賀昭次先生、西村祥三先生、深水良君と小生等で、良きチーム作りを行い、何度も優勝しては美酒に酔った記憶が想い出されます。そして、二外科在局中は、毎年11月になると、三外科対抗テニス大会（現在は福大も加わって四外科）と称して、九大第一外科、鹿児島大秋田外科（当時）と三つのチームが、優勝のトロフィーを競い合いました。前日には、各当番の大学の開催地において、夕食の懇親会でもてなされて、二日酔いでプレーする先生方もおられました。酒豪の多い我がチームも薩摩焼酎には、まいりました。しかし、鹿大の湯田、宮崎組は酒もテニスも強かったなあ！

また、久留米大学医学部のテニス関係の行事も沢山ありまして、初代のテニス部長にちなんで、夏の西村正也杯ダブルス大会、次の部長の広戸杯OB戦が秋に催され、春には、よく学生を可愛がってくださった先代の部長の加藤杯シングルス大会

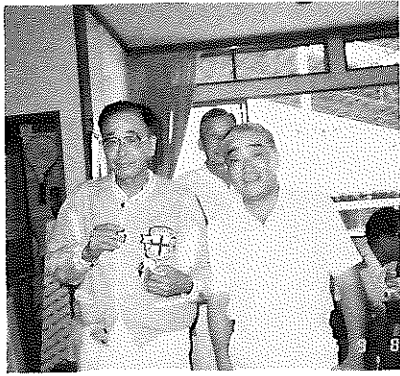


ウインブルドン九州で、筆者

が行われております。広島県在住の吉崎英一郎先生や山口県的小林詢弥先生など遠方から来られる先生方も多く、一日中太陽の下で走りまわっては舌戦と談笑に花を咲かせて、友好と親睦を重ねております。それから、テニス部OBは、九大医学部テニス部OBの先生方と毎年、体育の日の10月10日午前10時に集合して、定期戦を行って旧交をあたためます。各大学が交互に幹事を受けもって、この年は九大コートで、次の年は九大医コートというふうにやっておるわけで、九大の池田先生、藤井先生や当方の大蔵文治先生、富田春英先生は、加齢にもまげず、まだまだ健脚を誇っていらっしゃいます。試合の後は、恒例の“反省会”とあいなって、ビールで乾杯後、スキヤキをつつきながら（九大では焼鳥）お互いの対戦相手を賞賛したり、野次ったりで、舌戦が盛り上がってきます。弁の立つ先生（九大の古山先生）は、言いたい放題で満場を沸かせて下さいます。この大会も先輩に聞くと、25年間、四分の一世紀も続いているとのこと。両大学OBは、末長く継続されるように、毎年、私事を調整して出陣していきます。各大会を運営して下さる幹事の先生方（産婦人科の岩永成晃くん、ご苦労さん）裏方をやってくれるテニス部の学生さん達、皆様御苦労さまです。いつも感謝しております。

おわりに、もう80歳近く？になれる前久留米大学整形外科教授の宮城先生が、声高らかに楽しくやっておられる凛凛しいお姿をみますと、小生も、心身の健康に留意して、いつまでもエンジョイテニスをつづけていきたいと思ひます。

趣味と実益を兼ねて
(右が筆者)



荒木 崇文〈熊本〉

私はいつも趣味はテニスといっている。テニスを初めてより約20年、何時の間にか生活の一部に入っている。家内も引き入れ2人で週末は必ず健康と美容のためテニスに興じている。試合となるといつも1回戦ボーイ、負ける人がいるから、勝つ人がいる。これは厳粛な事実であるが、私はど

明日への活力

うも試合には弱い。実力が伴っていないので当然のことだが専らサービス係といったところだ。

殊に65歳を過ぎてくると足腰が弱くなり、少しでもラリーが続くと息切れしたり惨憺たる状態になる。それで勝敗は別にして健康のため、ストレス解消のため気楽なテニスに変更した。テニス・クラブに行くと若いピチピチした女性が沢山いる。女性相手に楽しみながら、のんびりと趣味と実益をかねながら余生を送りたいと思っている。殊に運動後のビールの旨さは格別、テニキチの仲間と語り合い、明日への活力を蓄え楽しんでいる今日この頃です。

テニスの醍醐味

二口 稔〈熊本〉

九州ドクターズテニスとの関わりは、まだ日が浅いのですが、昭和61年秋から63年の春まで4連勝して、いい思いをさせて戴き大変感謝しております。長年テニスをやってきたおかげで、人とはかなり違った人生を送る破目になったのも、テニスの醍醐味を味わった者が、味わざるを得ない恍惚と苦悩かと納得しております。ボールが入ったとか入らないとかが、人生にとってさほど問題でないということは、わかっていても、いまだにそこにこだわりを持ち、テニスを続けているのは、やはりテニスの持つ摩訶不思議な魅力でしょう。仕事や他の遊びでは、なかなか味わうことの難しい満足感や充実感を一度味わってしまうと、そこから抜け出すことが困難となり、深みにはまった感じです。

昔、テニスに夢中になりすぎた反動から「ボールが入る、入らないが、人生にとっていかなる価値を持つか」という哲学的命題を自分につきつけ、全く無駄以外の何ものでもないことを考えた時期がありました。しかし、その問いに対する解答を見つけることがなかなかできず、袋小路に入って



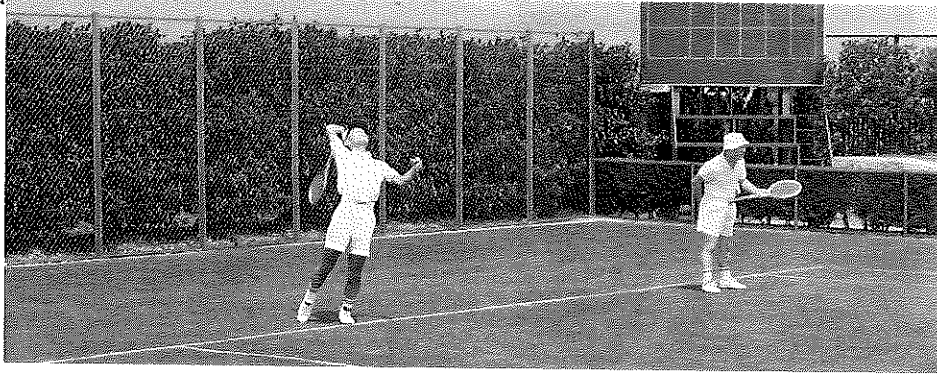
もがいた結果、最後の結論は「スマッシュの一撃にまさる人生の真の喜びはない」ということで、再びテニスをやり始めたということがありました。

スポーツを楽しむということは、理屈でなく、心と体と技とを思う存分働かすという単純明快な論理に帰着すると思われまふ。若いころのテニスへの見方と中年になってのテニスへの見方は少しずつ変化しております。中年になって真夏の炎天下で汗水をたらしてボールを追いかける姿は、テニスの醍醐味を味わったことのない人にとって、全く馬鹿げた滑稽な姿に見えるでしょうが、そのあとに待つビールの格別さは、付き合いや宴会で味わうビールの味とは全く異質の、この世の極上の喜びを味わせてくれると思います。医業の忙しい合間をぬってテニスを続けることは、なかなか大変ですが、人生の喜びと健康および患者に対して模範を示すのだと勝手な理屈をつけて、今日もラケットを振っている次第です。

伴

俊幸

（熊本県上益城郡）



プレーする筆者（左）

基礎体力づくりに励む日々

テニスを始めたのは40歳を過ぎてからで、当時は軟式をやっており、郡体に行くのが夢であった。真夏のテニスコートで汗を流していたことが懐かしく思い出される。そして更に県体へと進み、その後、当山堅一先生と組ませていただいて、県の国体予選で優勝し、国体選手となったのは、夢のような話であった。

父の死後しばらくはテニスから遠ざかっていたが、岐阜大会では、当山先生のお陰で決勝戦まで

進み、惜しくも天皇杯保持者のチームに負けたがその時の準決勝のことは、今でも脳裏に焼きついている。相手チームの後衛は若くてバリバリ打ちまくり、我々は全く打たれっ放しであった。若輩の私が大先輩に向かって「打たれっ放しでは腑甲斐無い、私も思い切って出るので、先生もびんびん打って下さい」と言うと、先生はズボンの紐を締め、「よし、やろう!」と気合いを入れられた。うまくコンビネーションが合って、そのゲー



悠心

快適・快活な生活を...

使用上の注意

① 一般的注意

(1) カルシウム拮抗剤の投与を急に中止したとき、症状が悪化した症例が報告されているので、本剤の休薬を要する場合は徐々に減量し、観察を十分に行うこと。また、患者に医師の指示なしに服薬を中止しないように注意すること。(2) 降圧作用に基づくめまい等があらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う作業に注意させること。

② 次の患者には投与しないこと

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 (2) 心原性ショックの患者

③ 次の患者には慎重に投与すること

(1) 大動脈弁狭窄、僧帽弁狭窄のある患者 (2) 過度に血圧の低い患者 (3) 血液透析療法中の循環血液量減少を伴う高血圧患者(過度に血圧が低下することがある。) (4) 重篤な腎機能障害のある患者 (5) 肺高血圧のある患者

④ 副作用

(1) 肝臓：まれに黄疸、GOT・GPTの上昇等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止すること。

*本剤のご使用にあたっては、添付文書をご参照ください。

コンスタントでマイルドな
血圧安定作用。

- 作用時間の長い持効性製剤
- 1日2回投与、良好な服薬コンプライアンス
- 本態性高血圧症のファースト・チョイス
- 緩やかで、安定かつ確かな降圧効果

効能・効果

本態性高血圧症、腎性高血圧症/狭心症

Ca-ブロッカー・ニフェジピン持効性製剤 (特) (保)

セパミット-R

SEPAMIT

カプセル10・20

SEPAMIT-R CAPSULES 10・20 健保収載

発売元 製造元
オオボウ薬品株式会社 鐘紡株式会社
 〒107 東京都港区元赤坂1-3-12 〒131 東京都墨田区墨田5-17-4

ムをものにし、決勝戦に進むことが出来たのであった。

その前後から当山先生の勧めもあり、硬式テニスを始めるようになった。硬式を始めてからの大分の大会では、根井先生と組み、準優勝までこぎつけた。以後20年余り硬式テニスを続けている。その間、我が家のコートのローラーを引き過ぎて、右の肘を痛め1年間休養、その次は自動車事故で右膝の関節を痛め、第一線から落伍。またまた冬の間、20キロの塩化カルシウムを散布中に椎間板ヘルニアを起こし、杖をついて診療した。同年の荒木先生(整形外科)を訪れたところ、手術をすすめられたが、手術をすれば病院を閉鎖せねばならず、手術を断念、現在に至っている。本人はさっそうとテニスを楽しんでいるつもりだが、傍目にはへっぴり腰のヨタヨタ姿に写っていることと思

う。

満身創痍の体だが、当山先生のお情けで一緒に組んでもらい、数年前の大会では決勝戦まで進出した。名手、鹿児島の有馬先生、福岡の松田先生と対戦、スコアは定かではないが、多分3-7で負けていて、首の皮一枚になりながら作戦を変更し、9-7で逆転優勝したことが、昨日のように思い出される。これも当山先生のお陰である。現在腰を痛めておられるが、今でもコートに出ておられるのは心強い。松瀬先生共々、いつまでもテニスを続けていただきたいと思う。

私も体力が落ちないように、2年前から毎日、1キロの鉄アレイ2個を用いて、腹筋運動200回、四肢の運動を200回行っている。いつまでも白球が追えるようにとの願いを込めて。

軟式から硬式へ、転向のすすめ

小川 八郎 (宮崎県西都市)

最近プロテニスのテレビを見る機会が多くなり、あれーと気付いたのは大半のプレーヤーのグリップが厚くなった事で、特に一部の若手のグランドストロークは日本の軟式テニスのスタイルそのものだという事です。

腰を落として思い切ったバックスイングからの強力なドライブ、フォアのトップ打ち。これなら日本人のおはこのはずだ。更に思いつく事は前衛のポーチがある。

国体クラスの前衛の動きには、硬式では見られない高度の技術があり、芸術的なものを感じる。

熊谷、清水、原田の諸先輩が軟式のグリップで世界に雄飛した栄光を思う時、私は若い諸君に、この我が国独特の技を十分に活用して世界に通ずる多くの選手の出現を夢見しています。国体クラスの素質のある高校生の硬式転向は如何でしょうか。

硬式指導者の英断と軟式テニス会の協力をお願いしたい。

《筆者の略歴》 小学1年生から軟式のラケットを握り、昭和27年頃から硬式。何れもBクラス止まり。主な所属=小倉(玄海)クラブ、宮崎クラブ。70歳。

九州医師テニス協会25周年 第50回大会

協 賛

調剤薬局、介護用品、ドラッグストアで

トータルヘルスケアへの貢献を目指します。

(株) サンキュードラッグ

〒801 北九州市門司区黒川 135-18

TEL 093-341-3177

FAX 093-341-3110

テニスに魅せられて

入部兼一郎

〈鹿兒島〉



昭和60年6月、第39回大会で、ついにA組優勝、左はパートナーの有馬先生

大学の頃は山登りや碁をして休暇や休日をすごしていた。テニスもしないことはなかったが、熱を入れてやったような記憶はあまりない。整形外科に入局したら、病棟の横にテニスコートがあった。春から夏になる頃で、夕方になると決まったようにコートに出て一汗かき、手術室の風呂に入り、ビールを飲むというのが日課であった。しかし、新入局で多忙な研修の合間のテニスであるから、そんなに上手くなったとも思えない。大学を去るとともにテニスをする機会は無くなり、テニスのことはほとんど忘れてしまった。

昭和49年、郷里鹿兒島に帰って開業したが、その頃はもっぱらゴルフであった。ところが2、3年経った頃、我が家のすぐ近くに会員制のテニスコートがオープンした。ナイターの設備もあり、手軽に行けるので、もう一度テニスを始めてみるかという気になり、ラケットとテニスウェア一式揃えて10年ぶりにテニスコートに立つことになった。

何の気なしに再開したテニスであったが、いつの間にかその魔力に魅せられ、次第に深みにはまりこんでいった。一日の診療が終わるや否や家を飛び出し、テニスコートに日参することになった。それではさぞや上達したであろうと思われるかも知れないが、そうは問屋が下ろさない。数年後、少しはゲームも出来るようになったので、一躍、全九州医師テニストーナメントB組に出場してみたところ、はかなくも一回戦で敗退してしまい、テニスとはそんなに甘いものではないということを知った。捲土重来を期してトレーニングに励むこと数年、昭和57年、宮崎の尾田博先輩と組んで再挑戦。その時はすでに壮年クラスに達していたが、みごとB組優勝の栄冠を勝ち取ることが出来た。そして昭和60年、北九州市三萩野で行わ

れた第39回大会で加世田の有馬哲三先生にパートナーになっていただき、ついにA組でも優勝することが出来たのは私のテニス歴の中でも忘れ得ぬ思い出である。さらに63年11月宮崎大会で、高校時代の同級生、深水孟君と組み、再度A組優勝をかざることが出来た。このような形で旧友と再会することが出来るのもテニスのおかげであると感慨深い。

テニスをやってきて良かったと感じることの一つはテニスを通して交友の輪が広がり、医者以外にも多くの友人が出来、人生が豊かになったことである。テニス仲間であるというだけで、大学生も社会人も、あるいはママさんテニスのメンバーとも気楽につき合うことができる。白衣を着ていたり背広を着ていたりしていたのでは、彼等とこんなにフランクに話は出来ないだろう。

テニスは上手な者も下手な者も一緒に仲良くプレーする事もできるが、場合によっては厳しく差別されることもある。テニスの世界では上手いものが偉いという不文律がある。教授であろうと社長であろうと下手なテニスをしていたのでは、なかなか仲間に入れてもらえない。まだビギナーの頃、我々には一べつも与えず、ボレー、スマッシュをまじえて楽しんでいる中級者、上級者のゲームを羨望の眼で眺め、なんとかしてあの連中と対等になりたいと意欲を燃やしたものである。

ゴルフをする人から、テニスは非常にハードなスポーツで年を取ったら出来なくなるのではないかとよく言われる。以前は私もそう思っていたが今はそうではない。年をとってうまく走れないようになれば、あまり動かずに手がとどく範囲のボールを打てばよい。あまり走らないのに絶妙にラケットの面を使って、若者を手玉に取り、楽しんでいるかなりの年配の人を何人も知っている。

私の年齢も既に50歳代半ばに達した。軽症高血圧を指摘され、テニスもほどほどにやるように忠告された。そういうことで、最近では以前のようなハードなテニスから適当に楽しむテニスに変わりつつある。健康が許すかぎり、いつまでもテニスを続けていきたいと思っている。

昭和62年10月4日、松下コート開き（中央が松下夫妻）



昭和42年第2回大会で優勝、バートナーの有馬先生と



昭和49年、全日本の大正ブロッグ優勝、有馬先生と

ただいま腰痛療養中

松下 紀文〈鹿児島県枕崎市〉

総ての会員と共に第50回九州医師テニス大会の開催を喜び、今後も未長く継続開催されることを祈り、あわせて会長をはじめ役員の方々の御苦勞に感謝申し上げます。

小生約3年前来、腰椎の病にて激しい運動を禁じられ、やむなくテニスからも縁遠くならざるを得ず、再びコート上に走り廻れるようになるかどうか、不安な毎日を過ごしてきました。

最近に成って、治療の甲斐あってか、腰部、下肢等の疼痛もとれはじめて、快復の兆しがみえ始

めたように思われます。この間、開催された本大会への出場もできず残念に思っていた次第でしたが、今のような快復が順調にすすめば、来年度からは出場できるのではないかと希望しながら養生してゆく積りでおります。その折には、コート上にて御指導御鞭撻ください。

ここに、九州医師大会初期の頃の写真と、発病寸前に、小生が造成したテニスコートのコート開きの写真を同封しておきます。



さて、きょうも

青空の下のテニス

尼子 春樹〈鹿児島〉

殆どの時間を室内で過ごさざるを得ない者にとって、日曜の天気は大いに気になるところである。私にとって天気予報がテニスのためにあるようなもの、それ故、いつも降水確率とお国から

桜島の風向きだけが関心事だった。が、この秋の病院旅行（吉野ヶ里）の際は気象情報までが気になった。そして、じっくりテレビの予報をみると、衛星の雲の写真にはじまり、アメダスによ

る降雨状況、明日の解説図、あすの全国の天気、そして九州沖縄の天気、ついで各地の予報となり、桜島の風向き、なんといたれりつくせりである。

予報通り当日は澄みわたった秋空の下、遺跡を歩いた。遺跡は“今しか生きられない人間”の弥生のことを想像させてくれた。環濠をめぐらし、それも大規模なもの、要所には望楼さえあったというのには、勝手に想像していた牧歌的な弥生人の生活とはだいぶ違った生活があったのだと思えた。同時に、環濠内の安全な場所で古代人は、汚れなき青空の下で何をして楽しんだのだろうとも

思った。

テニス、その歴史だが、ある本によると、テニスは紀元をさかのぼるはるか以前にギリシャで行われた古代ハンドボールにその起源を発しているところがあるが、一般的にはどうもその原形となるスポーツは11世紀ごろ、フランス、イタリアなどの僧院でボールを打ち合って遊ぶゲームだったらしい。いずれにしろ、その歴史は千年以上ということになる。そして、ラケットは、まずボールを打つとき手を保護するためのグローブにはじまり、年月がたつて長いグローブや橈のような形をしたものになり、離れたボールにもとどくように、橈状のものと紐を組合せたいわゆるラケットが考案されたという。

私がテニスにとりつかれた20年余り前はまだ、トネリコ材のラケットが最良とされていて、金属ラケットがチラホラ使われはじめていた。その後、材質の改善、フレームの大きさ、厚さと急速に進歩して来た。なんとかうまくなりたいと願う私はラケットの進化が腕までよくしてくれるものと誤解させられ、一つ変わるたびに新しいラケットを試みさせられ、そのつど打ってみるとなんだか

フワッと球が伸びて、これはいかめと元のラケットに戻してみると、ガツンとしたボールの衝撃にやっぱり新しい方がいいと思ったりした。

用具の改良は私のレベルではテニスが変わるほどではないが、時々見るプロテニス、時に男子シングルスはドカーンという弾丸ライナーのサービスに象徴されるように強烈な破壊力という攻撃型で一瞬にポイントが決まる傾向にあり、何かもう一つと思える。つまりラリーの間に流れを読む楽しさが欲しいと贅沢がいいくなる。このことは、今日の生活環境がそうさせているのかもしれない。情報豊かな社会で結論を急ぐのに似て、週末のテニスを楽しみたいばかりに降水確率と桜島の風向きだけに満足して、その前の雲の流れや、天気図から明日のテニス日和を自ら読みとる努力をしないことにも通じるような気さえした。

千年以上もの間にボールもラケットもコートもルールも変わって、多分、そのつど、青い空の下でのテニスは何にも変え難い魅力を増して来たのだろう。

青空を期待して、週末の天気を読むことから今週もまたはじまる。

アンジオテンシン変換酵素

持続性ACE阻害降圧剤



実りある生活をめざして

セタプリル[®]

CETAPRIL[®]

【薬用】セタプリル錠12.5mg
【薬用】セタプリル錠25mg
(アラセプリル錠)

【効能・効果】
本態性高血圧症、腎性高血圧症

【用法・用量】
通常、成人にアラセプリルとして1日25～75mgを1～2回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。なお、重症例においても1日最大投与量は100mgまでとする。

■薬価基準収載

※使用上の注意等は添付文書をご覧ください。

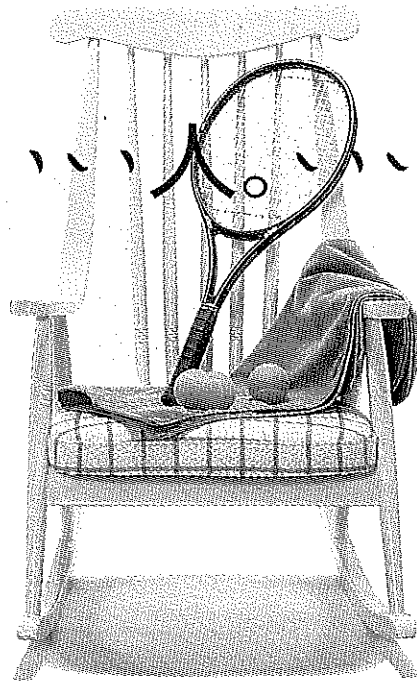
〔資料請求先〕
P 大日本製薬
〒541 大阪市中央区道徳町2-6-8

C-1

祝 九州医師テニス協会25周年記念
第50回大会

益々のご発展をお祈り申し上げます

汗。人。クラブ。



KOKURA
TENNIS
CLUB

北九州市小倉南区下南方二丁目4-5
TEL 093 (451) 5767